

第一部

「光の主題による三章」

私の海
誘蛾灯
ろうそく

歌…和澤康代
詩…宮田滋子
曲…松村百合
二十絃…桜井智永
ヴァイオリン…松岡麻衣子

「秋の女」

歌…酒井あやの
詩…堀内幸枝
曲…野村祐子
第一箏…野村祐子
第二箏…浅野 藍
尺八…野村幹人

「とこしへに愛を」

— 建礼門院右京大夫集より —

歌…関根恵理子
詩…小川淳子
曲…千秋次郎
箏…重成礼子

「折り鶴抄」

歌…森田澄夫
詩…木下宣子
曲…池上眞吾
三絃・胡弓…池上眞吾
箏…利根英法
十七絃…國澤秀磨

第二部

「炎上」

歌…水谷朋子
詩…高崎乃理子
曲…小森昭宏
尺八…米澤 浩
箏…熊沢栄利子
打物…多田恵子

「敦煌莫高窟幻想」

歌…中嶋啓子
詩…狩野敏也
曲…中嶋恒雄
尺八…藤原道山
箏…篠塚 綾
十七絃…松村エリナ

「しだれざくら — 紫の上 —」

歌…青山恵子
詩…藤井慶子
曲…高橋久美子
横笛…松尾 慧
薩摩琵琶…首藤久美子

ごあいさつ

社団法人日本歌曲振興会副会長
中村綾子

本日は、ご多忙のところご来場頂きましたことを、心より感謝申し上げます。本会は、詩人、作曲家、声楽家を擁し、数十年にわたり、新しい日本歌曲の創作と普及に努めております。

そして三年前、新部門として「邦楽器とともに」を新たに企画致しました。以来、邦楽奏者、及び邦楽系作曲家の、多大なご協力を得て、本日三回目を迎えます。

伝統ある邦楽器と、洋楽の発声による歌曲の創作は、三部門の会員を擁した当会でこそしなければならぬと、使命感をいだき発足致しました。

申し上げるまでもなく、新分野の開拓に困難はつきみありますが、新しい響き、新しい歌曲の創造をめざし、一同頑張っていく覚悟でございます。

日本人の感性が生み出した「邦楽器」を伴ったこの新しい日本歌曲が、世界に翔たくことを願ってやみません。

皆様のきびしいご指導と、暖かいご援助を頂きたいと存じます。

【「邦楽器とともにⅢ」実行委員】

伊藤香代子 木下宣子 千秋次郎 高橋久美子
中嶋恒雄 中村綾子 森田澄夫 横山政美

作品解説

「光の主題による三章」

静謐な月に寄す波はゆらぎ遊ぶ光と
溶け合いやがて横溢する想いへと変わ
る……。三つの詩を選んだのち宮田先
生に題名をご提案頂き纏めるに至りま
した。

〔松村百合(作曲)〕

今回邦楽器のための作曲に当たって
松村百合さんが詩集から光にまつわる
詩三篇を選ばれ、それにふさわしいタ
イトルを考えての構成となりました。
女性のみ射す秘めやかな月の光、誘
蛾灯と蛍の思惑の光、胸に点す思い出
の切ない光―それぞれの光と想いが、
歌二十絃・ヴァイオリンによりどのよ
うに表現されるか、とても楽しみです。

〔宮田滋子(詩)〕

「秋の女」

女流詩人・堀内幸枝は、秘めやかな
女の美しさを、赤と白の色彩のコント
ラストの中に、ミステリアスに描くの
が得意である。曼珠沙華はなぜ折れて
いるのだろうか、女は誰に別れの手紙
を出すのだろうか、白い着物を着た女
は白い風なのか……。ミステリーに満
ちた詩に想像力は膨らみ、心は躍り始
める。そして、生きていくこととは感
じることなのだと思ひ出させる。

この神秘的な女の美しさ、燃えるよう
な秋の野の寂しさを、風のようなメロ
ディに追い求めることができるのだろ
うか……。

〔野村祐子(作曲・箏)〕

「とこしへに愛を」

―建礼門院右京大夫集より―

高倉天皇の中宮となった平徳子(建礼
門院)のもとに、右京大夫(うきようだ
いぶ)という女房名で宮仕えしていた
若い女性がいました。権勢を誇る清盛
の孫、平資盛と恋仲になり、数多くの
和歌の贈答を重ねましたが、やがて源
平の合戦となり、壇ノ浦で平家一門は
壊滅、資盛も二十六歳の若さで戦死し
ました。残された彼女が在りし日の彼
との思い出を綴った哀切な歌集から三
首を選び、小川さんに詞書を新たに書
き加えていただき、一編の箏歌に託し
ました。過酷な運命を必死に生きた女
人の平家物語でもあります。

〔千秋次郎(作曲)〕

「折り鶴抄」

ずっと私の心の底に居座っていたヒ
ロシマは、リサイクルで「ひろしま」
を歌って以来、一段と陰を濃くしてい
ます。悲惨な記録に溢れた原爆資料館
で、最後に小指の先ほどのセロファン
の折鶴を見た時、私は目と心を奪われ
ました。あの原爆少女禎子が折った鶴

だったのです。宝石のように光り輝く
切ないほどの美しさに(これを作品
に!)との思いは膨らみました。この
思いは木下、池上両氏の賛同を得まし
た。しかし禎子はすでに、これまで語
り尽されており、また禎子が主人公で
は、男の私が歌うには、難しいのでは
との考えから、折り鶴を主人公にした、
全く新しい視点での作品、「折り鶴抄」
が誕生しました。

〔森田澄夫(声楽)〕

「炎上」

「炎上」は現代版「道成寺」を書き
たいと思つて作曲いたしました。四つ
の部分から成っております。女の「生
い立ち」といったところからはじまり、
次は「恋心」「つる恋心」そして「恋
心はあなたを縛つて共に炎上する」で
終わりになります。男と女の間の世界
を歌うことは私にとつても永遠の課題
でございます。すこしでも共感してい
ただけるところがあればなーと思つて
おります。

〔小森昭宏(作曲)〕

「敦煌莫高窟幻想」

この曲は、1995年に出版された
狩野敏也氏の詩集「中国悠々」の4番
目の詩「わが白日夢」を元詩として、
氏に新しく作曲のために簡略にして頂
いた詩にもとづいて作曲された。詩の
内容は、狩野氏の邯鄲一睡の夢とでも

言えようか。私は狩野さんの詩が大好
きで幾つかの詩に作曲させて頂いた
が、内容は諧謔と風刺に満ちている
にも拘らず、漢字の多いこと、長い
のには閉口している。そこで今度は、
音楽にのせて詩を朗読し、歌は、ボカ
リーズによるという方法を開発した。
曲の旋律は、勤務していた大学院の私
の研究室に留学してきた中国四川音楽
大学出身張劍君の胡弓の響きに触発さ
れている。

〔中嶋恒雄(作曲)〕

「しだれざくら―紫の上―」

平安時代の十一世紀初め、紫式部に
よつて書かれた「源氏物語」は、光源
氏を中心にした平安貴族たちの華麗な
恋愛叙情詩がくり広げられた物語りと
言えます。今年、執筆されて千年を
迎えますが、千年の時を経た今でも、
なお私達の心を捉えて止まないこの王
朝文学の魅力は、天才的な紫式部の魅
力でもあると思います。奇しくも源氏
物語の千年紀に当たるこの年に、紫の
上と光る君を、テーマにした詩「しだ
れざくら―紫の上―」を、演奏して頂
けますことは、この上ない喜びであり、
意義あることと思います。作曲の高橋
久美子先生、演奏下さる首藤久美子先
生、松尾慧先生と又その声と日本語の
美しさには定評のある青山恵子先生に
お歌い頂けますことを心から嬉しく感
謝申し上げます。

〔藤井慶子(詩)〕